

北海道管区理事  
橋本真英



北信越管区理事  
久我泰文



東海管区理事  
嶋田英淳



東海管区理事に就任し、任期の4分の3が過ぎようとしています。

全曹青と北海道青年会を繋ぐパイプ役として、「いのちの声に耳を澄ます」スローガンのもと、いま青年僧侶として何をなすべきなのかを考え、また地方会員の声を中央へ伝えていけるよう2年間精進してまいります。今年6月には北海道釧路市で北海道管区大会が行われる予定です。よろしくお願ひ致します。

手伝いをさせて頂く事が大切であると思っております。

各委員会の事業において、人との接点を大切にしようという方向性が一致していると感じました。基幹事業である電話相談事業は、人に寄り添いながら生きるという本来の僧侶の姿の一つの実践の形であると感じます。これからのお寺や僧侶が進むべき方向性の一つなのではないかと感じています。より多くの方が知識を学び・研修を体験し・実践していける環境を整えていく必要があるのではないかと思います。

私自身この組織の力になっっているのか疑問ではありますが、残りの任期を全うしたいと思えます。

第18期の基幹事業について、僧侶として真剣に関わり、いかに持続していくか、また中途半端で終わらせない覚悟が必要だと考えます。

東海管区大会は、昨年11月15日(日)浜松グランドホテルにてタレント島田洋七氏の『あの頃に還ろう』と題して講演会を行いました(次頁参照)。

管区理事インタビュー  
「全曹青と管区の架け橋として」(2)

前号に続き管区理事にインタビューを行いました。内容は、「管区理事に就任されたことについて」、「全曹青の事業について」、「管区大会について」の3点です。今号は橋本真英理事、久我泰文理事、嶋田英淳理事、武義道理事、伊藤和人理事の5名です。



中国管区理事  
武義道



今期、中国管区理事を拝命致しました。1期2年という限られた期間ですが、各委員方と協力し共に尽力できればと思います。今期の基幹事業の「いのちの声に耳を澄ます」という電話相談事業は、全曹

四国管区理事  
伊藤和人



今期のスローガンは「いのちの声に耳を澄ます」ですから、地元の声にも耳を傾けていくことも必要かと思えます。四国管区大会は小さな青年会で人数も限られています

青及び各青年会員と一般の方の距離を近づけ、心を繋げることの出来る可能性を持った素晴らしい事業ですが、各会員方に引き受けて貰うことの難しさもまた痛感しております。この事業が、己の資質をも高めるものであることに理解を求めていきたいと思えます。

最後になりましたが、中国管区大会が、昨年の11月に岡山を会場に開催されました。講師2名の講演を元に、皆で審議し、活発に意見の交換ができたのではないかと思っております(次頁参照)。

続けていきたいと思っています。僧侶や寺院という枠からもっと広げていければと思います。次の管区大会では精進料理にも取り組もうかと考えています。

全曹青の事業についてですが、基幹事業など、今の青年僧にとつて必要なものであると思います。委員会の事業も委員の皆さまの熱心な活動によって、毎会議ごとにより良い方向に進んでいるように感じています。管区理事になって、いろいろな経験をさせていただき感謝と自身の才学の無さを感じています。

